



ロクサーナ・コンスタンティネスク

「セビリアの理髪師」のチャーミングなヒロイン、ロジーナを歌うのはルーマニア出身のメゾ・ソプラノ歌手ロクサーナ・コンスタンティネスク。コロフトウーラのテクニクと深い響き、そして可憐な舞台姿で人気の、若手の注目株だ。ウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍し、小澤征爾にも認められた才能が、得意のロジーナ役でオペラパレスの舞台に花を咲かせる。



Roxana Constantinescu

ルーマニア・ブカレスト生まれ。ジョルジュ・エネスコ・アカデミーでピアノと打楽器を、その後ブカレスト国立音楽大学で声楽を学ぶ。2003年に奨学金を得てウィーン音楽大学で学ぶ。06年ミュンヘンのARD国際音楽コンクールに優勝。2007/2008シーズンよりウィーン国立歌劇場の専属歌手となり、2009/2010シーズンまで活動。その後はケルン歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、ミネソタ・オペラ、ダラス・オペラ、アン・デア・ウィーン劇場、トゥールーズ・キャピトル劇場、ブカレスト国立歌劇場などに出演。新国立劇場初登場。

ウィーン国立歌劇場と契約後すぐに マエストロ小澤と共演して『ダブルの幸せ』

— コンスタンティネスクさんは五歳から歌っていたそうですね。歌手になろうと思ったきっかけは？

■ コンスタンティネスク(以下C) ■ ええ、私は五歳のときからルーマニア放送児童合唱団で歌っていました。十八歳まで在籍していたのですが、十三歳で合唱団のソリストとなり、その頃から歌手への兆しが見えてきたと思います。ピアノと打楽器にも興味があつて習っていました。ピアノと打楽器は少し打楽器も専攻しましたが、最終的には第一専攻が声楽、第二専攻がピアノです。その後ミュンヘンではオペラとオラトリオのマスタークラスも受けました。

— プロの歌手としての活動の最初が、ウィーン国立歌劇場のアンサンブルメンバーだったんですね。**■** ミュンヘンのARD国際音楽コンクールに優勝して、その後ウィーン国立歌劇場のオーディションを受けるチャンスがあり、最初の契約がウィーン

国立歌劇場の専属歌手という夢のようなスタートを切りました。オペラのメジャーデビューは、二〇〇七年ウィーン国立歌劇場で小澤征爾指揮「フィガロの結婚」のケルビーノ役です。二〇〇七年にウィーン国立歌劇場との契約後、すぐにマエストロ小澤と共演できて『ダブルの幸せ』でした。その後、オペラ歌手として素晴らしい舞台で多くの経験を積むことができて、ウィーン国立歌劇場のアンサンブルメンバーになったことにも感謝しています。

— 小澤征爾氏と共演して印象的だったことは？
■ 私にとっては夢のような共演でしたので、なにもかも素晴らしくて、また、とても優しくしていただきました。「心からの感謝」につきます。

— レパートリーは広いようですが、ご自身のなかで一番大切にしたい作曲家は？
■ 私はリリックなメゾ・ソプラノですので、モーツアルトの多くの役を歌っています。例えばドラベツラ、デスピーナ、ツェルリーナ、ケルビー

出演したんです。この役を勉強はしていましたが、実際に舞台で歌ったことはなかったのですが、とてもドキドキしましたが、幸い大成功となりました。あの舞台は忘れられません。その後、ロジーナは

いろいろなところで歌い、もちろんウィーン国立歌劇場でも何度も歌いました。急な代役はウィーン時代に何回も経験しましたが、いいチャンスをつかむことができたのは幸いでした。

ロジーナは、歌唱力だけでなく演技力も要求される 難しいけれどもやりがいのある役です

— ご自身にとって「セビリアの理髪師」はどんな作品ですか。

■ とても有名なオペラ・ブッフアですから、お客様もそれなりのイメージを持っていらつしやる作品だと思いますので、若い歌手がこのオペラを歌うことはひとつの大きな挑戦です。すでに伝統のスタイルがある中で、自分なりの新しい解釈を見出し、それを舞台で再現するのはチャレンジだと思つて毎回歌っています。

— ロジーナという役の魅力はどこにあるとお考えですか。

■ ロジーナはまず、高度なコロラトゥーラのテクニクが音楽的な見せ場だと思います。しかも正確なテクニクでなくてはならず、あまり自由に歌うのは危険があります。しかしロッシーニはベルカントですから、リリックで美しいフレーズも大切です。そういう意味ではこの作品にも、モーツアル

トのオペラのようにすべてがあるといえます。ロジーナは可愛いだけでなく、聡明な女性です。パルトロの前ではとても純真無垢ですが、自分のやりたいことはやり遂げる女性です。若いリンドローの愛を受け入れたいと思ひ、それをやり遂げるのです。それには歌唱力だけでなく演技力も要求される、難しいですがやりがいのある役です。

— 今回の出演者の中で、共演経験のある人はいますか。

■ フィガロ役のダリボール・イエニスとは、ウィーン国立歌劇場で何度も一緒に歌っています。そのほかの方々は初めてなのでとても楽しみです。忙しい毎日を送っていらつしやると思ひますが、気分転換になさることはありますか。

■ 映画を観に行つたり、ジャズのライブを聴きに行つたりします。オペラ以外のジャンルの音楽を聴くのも好きで、それを聴くとリラククスできますね。スポーツも好きで、気分転換だけでなく身体のコンドイションを整えるためにもエアロビクスなどを行っています。二年ほど前にスキーも始

ノなどですね。それとロッシーニです。「チェネレントラ」「アルジェのイタリヤ女」、そしてもちろん「セビリアの理髪師」のロジーナも大好きな役です。フランス作品も好きでグノー「ロメオとジュリエット」「ファウスト」、マスネ「ウエルテル」のシャルロット役などを歌います。作曲家としては、やはりモーツアルトですね。彼のオペラの中にはすべてがあります。歌に込める感情、そしてオーケストラも素晴らしい。モーツアルトの役はすべて好きです。あと「ウエルテル」のシャルロットはとても女性的な音楽の流れが好きです。「カルメン」を将来歌ってみたいと思つていますが、その時が来るのを忍耐強く待ちたいと思います。今後は「カプレーテイ家とモンテツキ家」「ばらの騎士」なども歌いたいのので、一歩一歩ゆっくり積み上げていきたいと思ひます。

— 今までで一番思い出深い舞台は？

■ いろいろありますね。ロジーナ役を初めて歌つたのはケルン歌劇場でしたが、急な代役として

めて、まだあまり上手ではありませんが楽しいです。自転車に乗つたり散歩したり。仕事以外のことを楽しむ、それが一番です。

— 日本へいらつしやるのは初めてですか。

■ 今回で二度目です。四年前にマエストロ小澤とのアジア・コンサート・ツアーで来日しました。今からとても楽しみにしているのはカラオケ(笑)。前回は同僚の歌手たちと一緒にカラオケに行き、お酒を飲んでたくさん歌いましたが、とても楽しかったのです。またぜひ行きたいです。それと、古いお寺や神社もゆっくり見たいですし、現代建築にも興味があります。前回の東京滞在は短かったのですが、今度は少しゆっくり東京を散策したいと思つています。

— 最後に観客の皆様へメッセージをお願いします。

■ 「セビリアの理髪師」は、観終つたあとと微笑みを浮かべてお帰りになれる楽しい作品ですし、また、今回の歌手陣から必ずやこのオペラの新しい魅力を感じていただけたらと思います。何度観ても歌手の違いによって新鮮な発見や驚きがある、そういう作品ですから。ぜひ多くの皆様にご覧に来ていただきたいです。皆様の心に届く公演をきつとお贈りできると思ひます。(日本語で) どうもありがとうございました！

